

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI



22 DECEMBER 2009

No. 157

小樽商科大学
学園だより

No.157 CONTENTS

何ができるかな?先生のお気に入り!!

コラム 100周年に向けて

部・サークル紹介

EDITOR'S ROOM

学生企画事業実施小委員会など

2009年全力疾走で賞
今を時めくイノベーター賞
大きいこと始めちゃいま賞!
やる気に満ち溢れているで賞
この手帳を使えば就活頑張れるで賞
2009年商大・小樽の姿を追いかけて続けたで賞
誰よりも先を見据えたやり手なリーダーで賞

特集

2009年頑張ってます!!大賞

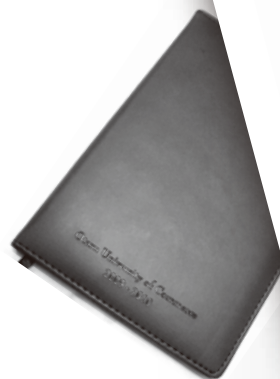
学園だより

題字は 山本眞樹夫 学長

No.157 22 DECEMBER 2009
OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

CONTENTS

【特集】2009年頑張ってます!大賞	1
何がでるかな?先生のお気に入り!!	10
コラム 100周年に向けて -おしゃべりな木彫りのクマ-	12
部・サークル紹介	17
EDITOR'S ROOM	18
学生企画事業実施小委員会	20
NEWS	21
2008年度 経済学科授業評価	22
新任教員紹介	
水島 淳恵(経済学科)	24
深田 秀実(社会情報学科)	24
写真でみる小樽高商・商大小史 ⁽²⁴⁾	25





2009年 頑張ってます!大賞

みなさん、2009年はどんな年でしたか?

何か「頑張った」と思えるものはあったでしょうか。

今回は、『学園だより』から「2009年頑張ってます!大賞」を

今、もっとも輝いている人たちに贈ります。

彼らはどんな“思い”で活動しているのでしょうか。

頑張っている人の素顔に迫ります。



2009年
がんばって
ます!

2009年全力疾走で賞

かむろ ふうき
禿 風樹さん(1年生)



商大にラクロスサークルを立ち上げ、 主将として活躍中!!

「大学に入って、やったことのないことをやりたい
なと思っていて…」という禿さん。サークル創設にあた
っては、先輩がいないことに不安を感じていたそうで
すが、他大学のラクロス部が多くの支援をしてしてくれま
した。「全く知識がない状態で、教えてくれる人もいな
い…だから、特に夏休みは、あちこちの大学の練習に
参加させてもらいました」といい、積極的に知識や技
術を吸収しようという努力がうかがえます。「サーク
ルをゼロから作り上げていくという楽しみもあるし、
まだまだレベルが低い段階にあるからこそ、うまくな
る楽しみもあります」とやりがいを語る禿さん。ご自



△ラクロスの道具
「クロス」。ネット
部分は自分で編む
ため、暇を見て編
み方の勉強もして
いるそうです。

身のポジション「ミディー」は、一
番走るポジションとのこと。その運
動量は、100mコートを往復で全
力疾走し続けるようなもので、2～
3分毎の選手交代が必要だと言
います。プレーヤーとしての今後の目
標は、北海道ユースに選ばれるこ
とだそうです。「上手い人とプレーし
たり、色んなコーチから教えてもら
って、チームに持ち帰りたい」と教

えてくれました。2009年を振り返っての感想を尋ね
ると、「いや～、よく動いたな(笑)。でも、したいこと
をしているから、つらいとかは全然思わないですね。と
にかく今、うまくなりたいという気持ちです」とポジ
ティブ。

禿さんからメッセージです。「今、(ラクロスサーク
ルに)入ったら即レギュラー。1年目からたくさんの試
合を経験できるのが、新規チームの良いところです。
まだまだマイナーなスポーツである分、他大学とのつ
ながりが強いことも魅力
です。男女ともにメンバー
募集中なので、興味のある
方は、是非lacrosse-
pooh3@sings.jpまでご
連絡ください」



△練習風景。



活動紹介

「ラクロスサークル」男子プレーヤー7人、女子プレーヤー1人、マネージャー1人の計9人で、
週3回(火・水・金曜日)2時間ほど活動中。土日には、他の大学の練習に参加させてもら
うこともあります。現在、独立チームとしては人数が足りないため、他大学の新規チームと合同
で、各試合に参加しています。興味がある方はlacrosse-pooh3@sings.jpまでご連絡を。



取材して…

取材では、ラクロスにかける情熱が感じられました。サークルの皆さんは、とても仲が良く、チーム一丸となっ
て目標へ向かっているようです。チーム独立めざして頑張ってください!(須田)



2009年
頑張ってます! **大賞**

今を時めくイノベーター賞

遠藤 ^{まあや} 真彩さん (商学科2年生)

明るい笑顔と熱い精神で『ONE』や『メラメラ連合会』など今までになかった団体を立ち上げたエネルギッシュなイノベーター

今年の3月に結成され、たくさんのチャリティイベントを行ってきた『ONE』。楽しい時間と国際交流やボランティアについて考えさせるきっかけを作ってくれました。

「結成当初は勢いで突き進んでいけたので、すごく楽しかったです。でも、最近は勢いだけじゃいけないと悩むようになりました」活動内容の明確化や、メンバーのモチベーションを保ち続けることが難しいと言います。「自分の意志がぶれないように進めていくことが大事だと思っています」



△真彩さんが日々心にかけていることは、『ココロノート』をつけること。「心を動かされたときはそれを書いて自分の気持ちを整理しています」

一方で、真彩さんは『メラメラ連合会』の幹部でもあります。「『熱い人同士で情報交換ができれば』という思いで結成しました」好奇心旺盛で、さまざまな活動に取り組みます。

「どんどん興味がわいて、自分が新しい世界に飛び込むことで世界が広がるんです」そこか

ら新たに向上心が湧いてくるそう。

今後の目標は、「ONEとしてはやはり、最初に掲げていた『カンボジアに井戸を作ること』ですが、その過程で人に国際ボランティアについて考え直すきっかけを作れたらと思いますし、今はその先にある『人の笑顔』を目標にしたいという思いがあります。今後は地域ボランティアなども取り入れられたらと思っています」これからどんどん活動の幅が広がりそうです。「今の自分はやはり無力だなと感じるので、もっと勉強しているんなことを知りたいです!」

真彩さんからメッセージです。「挑戦しろ! 飛び込め! 興味を持ったことはやってみることが大事だと思っています」



△『ONE』のメンバー。
「チャリティコンサート vol2」も大成功でした。

△いろんな人と会って世界観が広がり、
「楽しくてしょうがないですね」

活動紹介

【ONE】2009年3月に結成され、カンボジア支援を目的としてさまざまなチャリティイベントを企画、運営している国際ボランティア団体。今年は2度の「チャリティコンサート」を行い、井戸を3基作ることができる資金が集まりました。定期ミーティングは毎週火曜日。http://sky.geocities.jp/ouc20090301/

【メラメラ連合会】「小樽の活性化につながるようなでっかいことをしたい!」をテーマに今夏から活動をスタートさせた団体。「今後はギネスに挑戦したい!」と考えているそうです。「熱い人募集!」

取材して...

明るく気さくな真彩さんの取材は和やかに行われました。熱い思いで行動するだけでなく、経験したことをそのままで終わらせずに「しっかり自分と向き合う」という姿勢に意識の高さを感じました。(梁川)



大きいこと始めちゃいま賞!

清水 健介さん(経済学科2年生) 浜野 哲也さん(社会情報学科2年生)

つい最近も商大で『ハイジャック会議』を開催し、今後も大きなことをしてくれそうな期待の2人に注目!



△清水さん

「小樽が好きになったということと、大学生活中に何か大きいことをやろうと思って」そして、「一生付きあえる友達がほしかった」それに合致していたのが『ハイジャック会議』でした。

実際に行われた会議は、様々な団体に所属する個性あふれる学生が集まり、清水さんの進行のもと、和やかな雰囲気で行われました。反省点もあったそうですが、「団体の枠を超えて交流する場ができたし、終わったあとに『良かった』と言ってもらえて嬉しかったです」今後は、「大学の枠を超えたいと思います。札幌と小樽を結び、もっと交流を深め、最終的には北海道全体に広げたいなと思っています」大きな夢を語ってくれました。「まだ口だけですけど(笑)」と付け加えながら。

そんな清水さんも昔から活動的だったというわけではなく、「夏休みに『変わろう!』という課題を自分に出したんです」参加したあるイベントでの



ハイジャック会議の様子「VS商大」など面白い企画が!

様々な出会いから、「自分も何かしないとという気持ちになりました」自分を変える貴重な夏休みだったようです。

そして、清水さんとともにハイジャック



夏休み中に参加した『ビジネスプランコンテスト』の様子。「本気でやる楽しさを見つけました」

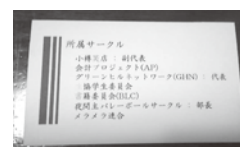
とも多く、スケジュール管理も大変ですが、「充実している」「動いていることが楽しい」と言います。今後の目標は…「有名人になることですかね(笑)」これからも大きなネットワークを作ってどんどんいろいろなことをやりたいと語ってくれました。

「小樽を盛り上げる人募集中です!」勢いのある二人の今後の活躍が楽しみです。



△浜野さん

会議の進行を支えていたのが浜野さん。浜野さんは7つもの団体に所属しており、なんと4つの団体の代表・副代表を務めています! いろいろな活動が重なって睡眠時間がほとんど無いこ



△浜野さんの名詞(裏)には所属7団体がずらり。

活動紹介

『ハイジャック会議』『今日この街をハイジャックしよう!』を合言葉にわくわくする企画を考える面白い会議。全国各地で行われています。11月に商大で行われた会議は小樽で初。「小樽に対する不満」を解消するような面白い企画を考えました。今後はその企画を実現することも目標です。地域と一体となって小樽をハイジャックしよう!

公式HP <http://www.hijackaigi.jp/about/>

『BookLifeCommissioner(BLC)』昨年度の経営学原理IIの授業から立ち上げられた団体。商大生協の購買の中にある書籍コーナーの活性化を目的に、企画提案や店舗改善などを行っています。

「購買に立ち寄った際には是非書籍コーナーを覗いてみて下さい!! (浜野)」

取材して...

そんなに活動して大丈夫!?と心配になってしまうほど多くの活動をしている二人ですが、「それが楽しい」と声をそろえます。つながりがどんどん広がって、ますます大きなことが期待できそうです。(梁川)

2009年
がんばって
ます!

2009年
頑張ってます! **大賞**

やる気に満ち溢れているで賞

桑原 夏美さん (商学科3年生)



『canal』『S-now』など、今年に入って次々と新しい
団体を立ち上げたやる気に溢れる、今後期待の人物!

「思い立ったら行動する」という桑原さん。「つい数時間前にキャンパスベンチャーグランプリ(ビジネスプランコンテスト)に投稿して来ました」以前、

「北プロ」主催の当コンテストに出たときに知り合った方々と一緒に参加したと言います。「商学系の勉強が大好き」という思いからの参加でした。

そして、今年の4月に自身が立ち上げたサークル



△『Canal』のメンバー。「一つ一つを確実に」が今の目標です。

『Canal』の活動。さらには他大学の学生と一緒に活動し始めた『S-now』という団体の代表も務めています。『Canal』の活動を始めたきっかけは、小樽を良く知っている知り

合いの方との会話の中に。「小樽には観光客にも市民にも知られていないイベントがとてたくさんあるこ

とを知りました。それを一括して知ることのできるサイトというのがあまり無かったので、学生の目線から紹介したいと思って始めました」また、『S-now』という団体は、「自分ってどんな人間なの?どんな人になりたいの?将来を意識し、目標に向かって、行動する。そんな『頑張る気持ち』を生み出す場、自分のことを見つめ直す機会を、色々な方に還元したいと思ったんです」

モチベーションが高い桑原さんですが、彼女を動かすものは何なのでしょう?「仲間存在ですね。周りに支えられてるなあと思います。また、ネットワークが広がるので、どんどんいろんな人と出会え、新しい価値観を知ることができたり、良い刺激をもらえたりします」それが新たなやる気につながると言います。



△沖縄へ一人旅のときに出会った友人と。「一緒に石垣島をまわりました」

活動紹介

メッセージです。「好きだと思うことや自分の気持ちを大切に。何でも自分次第だと思います」

『Canal』「小樽のイベントを学生の目線で紹介したい」との想いから2009年4月に結成された団体。今後は様々な人々をつなぐ『イベント紹介人』として発展させ、小樽を活性化させることが目標。

『S-now』「自分がどんな人になりたいのか、日々意識していますか?」自分の能力・意識を向上させるためのスイッチを入れる。【学生にキャリア意識を潜在化させる】ことをモットーに、セミナーを企画する団体です。11月28日に行った夢作成イベントでは、定員を超える参加者が集まってくださりました(右写真)」

連絡先はこちら→september_lion@ezweb.ne.jp (桑原) どちらの団体でも気になったらどうぞ!!



取材して...

親しみやすい笑顔と穏やかな雰囲気からは想像できないほど、熱い希望に溢れていました。そして、人との出会いやつながりをとても大事にしています。これからの活動がとても楽しみです。(梁川)

2009年
がんばって
ます!

この手帳を使えば就活頑張れるで賞

やなぎばし まい
柳橋 茉唯さん(経済学科3年生)

3年生全員が持っている今年度の就活手帳を手掛けたのは、 地獄坂工房に所属する彼女です!

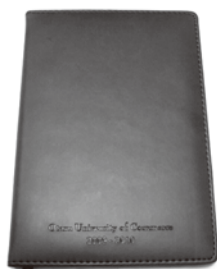
様々なオリジナルグッズを生みだしている“地獄坂工房”に所属する柳橋さん。就活生として自らも大いに使用することになるであろう就活手帳を完成させた想いや苦労を伺いました。

「とにかくバイトだけのつまらない毎日を少しでも変えたくて…」と地獄坂工房に入ったきっかけを語ってくれた柳橋さん。入ってすぐに任せられたのが就活手帳だったそうです。手帳を作るにあたっての取引先は、なんと中国!!「大変なものを引き継いでしまった、と責任の重さを感じました」手帳を完成させるまでの5カ月ほどは寝る暇もないほどだったと言います。

「自分のデザイン案をどうやって英語で伝えるかがとても大変でした。メールのチェックだけでもだいぶ時間がかかりました」中国企業とのやり取りの中で、報告・連絡の大切さを実感したり、関係者への礼儀を学んだり、社会人にな

ってから大いに役立つ経験ができたと話してくれました。何ヶ月にも渡るメールでのやり取りや、デザインの調整を重ねて完成した手帳を納品し、実際に手にした時はとても感動したそう。「本当に涙が出る位嬉しかったです。今までの苦労がすべて報われる思いでした」

最後にこの1年を振り返ってもらうと、「とても忙しく、でも大学生活で1番濃厚な1年」だったとのこと。「何かをやり遂げることがいかに難しいかを思い知りました。一つのことに対して真剣に向き合う力が身に付いたと思います」と力強く語ってくれました。



△今年度の就活手帳。
3年生全員の自宅に郵送され、現在多くの人に使われています。



活動紹介

「**地獄坂工房**」商大グッズとして日本酒や饅頭、携帯ストラップなどが地獄坂工房から販売されています。これからの目標は?の質問には、「商大100周年に向けグッズをもっと増やしたい」と今後に向けても前向きな回答。「ぜひみんなでグッズを作りたいという人、募集しています!」

取材して...

英語のゼミに入っているという坂柳さん。その勉強が今回、中国企業との英語によるメールのやりとりの場面で大いに役立ったのではと感じました。忙しい毎日の中でも、自分の時間を作り大好きな趣味に費やしたりもしているそうです。自分のやりたいことを徹底的に納得するまでやるような、とても強い意志を持っている方だなと思いました。(黒田)



2009年
頑張ってます! **大賞**

2009年商大・小樽の姿を追いかけて続けたで賞

や っ ま み さん (商学科3年生) 谷津 真美さん (商学科3年生)
さ わ や た く み さん (企業法学科3年生) 澤谷 匠さん (企業法学科3年生)

今年でブログ「商大くんがいく!」開設2周年。現在、学生スタッフとしてこのお2人が活躍中。商大・小樽の知られざる姿、魅力を伝えています!

商大HPに掲載中のブログ「商大くんがいく!」を大学職員の方と一緒に制作しているお2人。「ただ普通に大学生活を送っているだけでは得られない情報が得られます。あと色々な活動をしている人に出会い、刺激を受け、成長できるんですよ。商大の情報といえば、『商大くんがいく!』を見ればわかる!という感じになって、更に『このブログは皆が見ているから記事を書いてもらおう』というふうに広がっていくといいですね」と谷津さん。澤谷さんは活動を始めから以前よりも、商大や小樽について興味がわくようになったと言います。それにしても、毎日更新される

ブログだけあって情報収集も大変なはず。澤谷さんは「部活をやっている友人に『ネタあるだろ!』と言って無理矢理出してもらうことがあります(笑)。あと知り合いの4年生の先輩からネタを提供していただいたりすることもありますね」とのこと。情報収集に懸命に

なっている様子が目に浮かんできます。

お2人からのメッセージがこちら。

「取材してみたい人、大学職員の方と仲良くなりたい人、ぜひやってみませんか?もっとブログをたくさんの人に見てもらいたいです。ぜひ『商大くんがいく!』にアクセスして、見てください!(澤谷)」「ネタを本当に募集しています。記事内容として精力的に活動をしている人が多くなってしまうことがあり、皆さんは、なかなか載せてもらえないと感じている部分があるかもしれません。でも、そんなにハードルは高くないので、載せてほしいと頼んでくれれば、取材に行きます。一発ギャグが面白い人など学生紹介もできますよ。あと、私たちと一緒に活動してくれる人も募集しています(谷津)」



△澤谷さん



△谷津さん

活動紹介

「商大くんがいく!」取材して下さい、と頼まれた所へ取材しに行ったり、この記事を投稿に載せてほしいとの要望があったときはそれをブログに載せたり、とにかく記事になりそうな情報を収集して、ブログで情報発信する仕事です。月2回程度、大学職員の方と一緒にミーティングを開き、そこで今後の方針を決めています。「商大くんがいく!」へはこちらから→



取材して...

お2人の話を聞いて、職員の方と、とても仲良く良い雰囲気の中、活動をしていることが深く感じられました。裏話なども聞けて、すごく良かったです!(柳田)



△ミーティングの様子。左は大学職員の方で、右は谷津さんと澤谷さん。皆さん笑顔で楽しそうです。



誰よりも先を見据えたやり手なリーダーで賞

遠藤 里絵さん (商学科3年生)

アイセック北海道代表としてがんばっています

「大学入学当時から、企業で働くことに大きな関心を持っていました」と語りはじめる遠藤さん。受験を終えたばかりの大学生とは思えないモチベーションの高さを感じずにはいられませんでした。アイセックに入ったきっかけも、その活動の一つである海外から来た学生が日本ではたらくるように企業に提案する活動に興味があったからだそうです。というのも、普通の大学生活ではなかなかできない多くの企業の人たちと関わり、そして提案をするという



貴重な経験ができるところが、将来実際に働くときに役に立つのではないかと感じたからだそうです。

そんな期待を持ってアイセックに入った遠藤さんは、「その年入った誰よりも活動に張り切っていました。そういう面からもこの代で代表をやることになるかもしれない」と、次第にアイセックの代表を務めることを意識するようになっていったそうです。

「一年生のうちから企業の人との話し合いに慣れ

る、提案書を作るといったことを行っていました。そこでどうしたら自分の気持ちが相手に伝わるかということ

を学びました。提案をするということは契約を取らなければならないので、やっぱりそういったところが難しいですね」一年生のうちはなかなか契約が取れなくて大変でしたが、二年生になって小樽のある企業に中国人受け入れの提案をしたところ、『小樽は中国人観光客が多いことから、ニーズもある』と提案が認められたことがきっかけとなって、中国人の学生を小樽市内全域で研修生として受け入れて、観光の分野で発展を目指そうという活動を協力して行うことになりました。「自分が提案したことが、地域の人、企業の人から評価される喜びと、結果として契約をとることで、実際に中国の学生が来ている、という実現する喜びが、一番のやりがいだなと感じています」と意気揚々と語ってくれました。



活動紹介

【AISEC】送り出し+受け入れの二軸から成る海外インターンシップ事業です。海外インターンシップをしたい学生を集め、海外へ送る手助けをする日本人研修生の送り出しと、海外からきている学生が、日本で働けるように企業に提案をしている海外研修生の受け入れをする団体。

取材して...

「リーダーになる、人の上に立つ人はやはり、周りよりずっと先をみる力が必要だ。」と遠藤さんとお話をしていてつくづく感じました。また、海外インターンという難しいイメージがあるかもしれませんが、本当に貴重な体験ができると思うので、商大生にどんどん参加してほしいです。

会議の様子▷



そのほかにも…
たくさんの

頑張ってる人たち

2009年
がんばって
ます!

北プロ

今回の受賞者の中にも「心が動くきっかけになった」という声があった4泊5日の「ビジネスプランコンテスト」の主催者である「北プロ」のみなさん! 学生のフロンティア精神の喚起, 学生のネットワーク構築を目標にさまざまなイベントを企画・運営しています。



翔楽舞

「第18回YOSAKOIソーラン祭り」にてセミファイナル4位に受賞し、中国のお祭りでも演舞してきた「YOSAKOIソーランサークル翔楽舞」のみなさん! ボランティア活動も積極的に行っています。私たちに多くの感動を与えてくださいました。(17ページに活動紹介が載っていますのでご覧ください。)

TOMA HAWKS

今年見事北海道1部リーグ単独優勝を果たしたアメリカンフットボール部「TOMAHAWKS」のみなさん! 商大アメフト部史上初の快挙でした。日々熱心な練習を続けてきた成果です。おめでとうございます!!



「2009年頑張ってます! 大賞」いかがでしたか?

やる気と希望に溢れ、キラキラ輝いたものを感じられたことでしょう。

実はほかにも頑張っている商大生はたくさんいて、紹介しきれないほど…。

活動的な学生は年々増えているように感じます。

きっかけはささいなことでもいい。

動き出すことが大事なのだと思います。

2010年は何かに向かって動き出してみたいかがでしょうか。

より充実した輝く年にするために…



何がで"る"かな? 先生のお気に入り!!

奥田 和重 副学長

テーマ
音楽



やさしく穏やかな話し方が印象的な奥田先生。事務棟最上階に位置する副学長室で、ゆったりとした口調と雰囲気とに隠された意外なお気に入りも伺うことができました。

お気に入り1: 音楽

「クラシックやジャズが好きなんです」と笑顔で話す奥田先生。中でもお気に入りは作曲家、服部克久さん（服部良一さんの息子）のオリジナル曲がたくさんつまった『音楽畑』シリーズ。全20作のシリーズですが、先生の研究室にはほぼ全部揃いだそうです。きっかけはテレビ番組の主題歌で有名となった『自由の大地』という曲。それから好きになって、全集を集め始めました。研究室で聴くことが多いそうで、「疲れたときや一息つきたいときに聴きます」「音楽の自然食」をコンセプトに制作されたアルバムは心を落ち着かせてくれそうです。



音楽畑シリーズ全20集
税込み3,059円
ワーナーミュージックジャパン
クラシック好きではなくても聞きおぼえのある名曲がたくさん!しかし、今ではなかなか手に入らないそう。

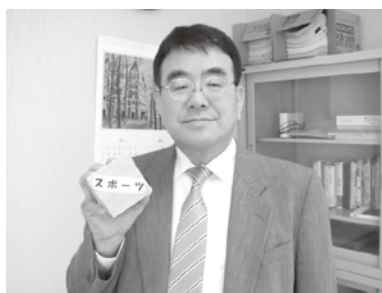
研究

先生の専門は生産管理。モノを作るときの計画と管理について研究しています。先生はもともと工学部出身のため、モノを作る手順を考えることが得意だそうで、理論だけでなく、より現実 に即した研究内容になっています。(梁川)



お気に入り2: スポーツ

先生のお気に入りのスポーツは「ラグビー」。とはいつても部活に入っていたわけではなく、観ることが好きだそうです。「肉弾戦」が魅力とのこと。大学時代から好きで、当時は新日鉄釜石製鉄所のラグビーチームが日本選手権7連覇した時代で、とても面白かったといいます。ラグビーの試合は屋に行われることが多いので、最近良く観るのはアメリカンフットボール。夜中に放送されているそう。



Message

大学を積極的に利用しましょう。授業だけを受けに来るのではなく、図書館、情報処理センター、キャリア支援課など、いろいろな設備がありますので活用してほしいです。先生とも仲良くして、良い意味で活用したほうが良いと思います。

経済学科

平井 進 先生

テーマ
スポーツ



▽保健管理センターで、万歩計のデータを元に作成してもらったというグラフ。一か月の運動量の推移などがわかります。この頃の先生の体重は、何と50kg（標準体重-6kg）!

先生のお気に入り

平井先生お気に入りのスポーツは、歩くこと。「目的がない運動って嫌いなんです…」という先生は、カロリー消費のためにスポーツをするそう。プールで泳ぐこともあるそうですが、「できるだけ乗り物を利用しない」など、日常生活の中でたくさん歩くようにしているといいます。地獄坂を登った後の楽しみをたずねると、「体に悪いとは思うけど、ノンカロリーコーラとか…楽しみというわけではないけれど、いつも飲みますね」と、にこり。先生は、普段、万歩計をつけているそうで、「消費カロリーも出るんですよ」と見せてくださいました。無理のない健康管理で、理想的な体型を保っていらっしゃる様です。

▽保健管理センターで借りられるという、先生愛用の万歩計。表示されているのは、取材時の歩数。



Message

大学時代を、アルバイトなどに明け暮れて過ごしてしまうのなら、その代わりに何か一つでも勉強をした方がよいと思います。大学4年間では十分なものは身につかないかもしれないけれど、卒業後の進路の方針やその前提となる知識・経験を蓄えてほしいです。

研究

18世紀から19世紀中頃にかけて、ドイツ語圏の地域社会がどのように運営されていたか、についての研究をされています。(須田)

今回で、第4回目を迎える「何ができるかな?先生のお気に入り!」のコーナー。普段、真剣に講義している姿とはちょっと違った、先生の意外な一面や趣味を知ることができるこのコーナー。今回も5人の先生の研究室にお邪魔してサイコロを振っていただきました。サイコロの面はそれぞれ、映画、音楽、スポーツ、本、場所、フリーです。さて、今回はどんなお話が聞けるのでしょうか?

商学科

李 濟民 先生



テーマ
フリー

先生のお気に入り

実は、商大の第一号交換留学生として、学生時代を商大で過ごした李先生。スポーツに関してはテニス、ゴルフが大好きだとか。教員テニス部に所属しており、学生とも対外試合をすることもあるそうです。音楽に関しては、ジャンル問わず大好きだそうです。最近ではジャズにはまっているとか。若いころにはバンドでサクソフーンやクラリネットにはまっていたそうで、鑑賞にとどまらず、ここでもアクティブさを発揮。休日には、「家内を連れて温泉後カラオケコースが日課なんです」と、嬉しそうに話して下さいました。そんな李先生の夢は大好きな油絵を描いてのんびり過ごすことだそうです。

Message

「不況といわれている時代だが、そんな中でも利益をあげている企業もある。『ピンチはチャンス』という言葉があるように、結局は自分次第。『自分がどこに立つか』が大切だ。努力して、もし夢がかなわなくても、その成果は必ず出るはず。今の状況に満足せずに、学生のうちにもっと背伸びして何にでも取り組んでほしい。」

研究

国際経営を考えるときには、米国モデル、欧州モデル、日本モデルの3つが存在します。それぞれがどのようなモデルかを検討する研究をされています。(高橋)

企業法学科

斉藤 由紀 先生



テーマ
音楽

先生のお気に入り

先生のお気に入りの曲はスキマスイッチの『ボクノート』。論文を書くのに行き詰ったときにこの曲を聴くそうです。この曲は、作詞者が作詞するとき、歌詞が思い浮かばず、何十回も書き直しながら制作されたもので、歌詞にはその苦悩がつつられています。「スキマスイッチの曲で他に好きな曲があり、アルバムを購入したら、その中に『ボクノート』があったんです。聴いたら、この曲にむしろ惹かれてしまいました。音楽を聴きながら論文の執筆をするトリフレッシュできるんです。学生の皆さんは卒論を書くのに悩んだら聴いてみるといいですね」



▽この曲はドラえもん
の劇場映画主題歌にも
なりました。元気になる曲
です。
スキマスイッチ
『ボクノート』
発売元: BMG JAPAN
価格: 1,260円

Message

自分の関心のあるテーマについて掘り下げて、自発的に勉強してほしいです。早めに希望の進路を見つけ、それに向けて全力で頑張ってください。

研究

銀行からお金を借りるときの保証人の責任について研究をされています。研究テーマに関するドイツやフランスの文献を読むなど、懸命に研究されています。(柳田)

ドイツ語学

鈴木 将史 先生



テーマ
フリー

先生のお気に入り

フリーの目が出ることは想定外だったという鈴木先生ですが、映画について話してくれました。先生は東西ドイツ統一以前の86~88年にミュンヘンに留学していたそうです。その頃に観た映画が小津安二郎監督作品の『東京物語』。ストーリーは田舎に住む老夫婦が息子を訪ねて上京するが、適当にあしらわれるというもの。「ちょうど両親がミュンヘンに来ると言っていた時期だったので、この息子と自分が重なって…」と懐かしそうに当時を語ってくれました。

また、ドイツ映画も好きな先生。お勧めのドイツ映画を1つ紹介してくれました。それが「善き人のためのソナタ」。この映画は今年あの「おくりびと」が受賞したアカデミー賞外国語映画賞を2年前に受賞した作品。「言語センターにも置いてあるので、ぜひ観てほしい」とのことです。



▽舞台は東西冷戦中の東ドイツ。
壁の向こうでは一体何が起っ
ていたのか…。『監視国家』の真実
を描いた作品です。

Message

「商大の男子は少しおとなしい印象がありますね。若い時にしか出来ないことをたくさん経験して、自分のまだ知らない世界を見てほしいです。」

研究

ドイツ文学の中で、劇作家ハウプトマンや、お祝いの席での劇である祝典劇について研究されています。(黒田)

100周年に向けて

COLUMN

第6回 おしゃべりな木彫りのクマ

前回のコラムでは、1936年から1960年までの25年間を取り上げ、「緑丘」をキーワードに当時を振り返りました。今回は1961年(昭和36年)から1985年(昭和60年)までの時代を取り上げます。前3回のように時代をさらには区切らず、ここでは25年間を一つながりで見ていきます。

年	出来事
1961年	電子計算機導入 外国語実験実習室 開設
1964年	学生会館 竣工 計算センター開設
1965年	体育館竣工 管理科学科 設置(国立大 初)
1966年	實方正雄学長 就任 大学生協 創立
1967年	新図書館 竣工 本学でも学生運動が起こる
1969年	入学式中止、管理棟封鎖 緑丘戦没者慰霊塔 除幕式
1971年	大学院商学研究科 設置 ☆『学園だより』創刊
1976年	伊藤森右衛門学長 就任
1978年	学科改組、商業学科に「商学コース」 「経営法学コース」 設置
1980年	長谷部亮一学長 就任 智明寮への新規入寮 停止
1981年	旧校舍解体、創立以来の建物は全てなくなる
1984年	藤井栄一学長 就任
1985年	計算センター 竣工

注:小樽高商史研究会[編]『小樽高商の人々』
pp265-267、pp274-275 (『小樽高商・経専・商大90周年のあゆみ』より作成)

11月初めに初雪が降りました。北海道の熊が冬眠してしまう前に、是非このコラムで紹介したい「クマ」がいる、よし今回登場させよう、そう考えていたらもう12月。今年もあとわずかです。「チェンジ」が、2009年の流行語大賞にノミネートされました。過去の本コラムを読むと、「でも商大の98年間は絶えず『チェンジ』だったのでは?」と感じます。(※1) 左の年表を見ると、とりわけハード/ソフト両面における大きな「チェンジ」が、この25年間(1961ー1985年)に訪れたと思われます。(年表参照)

まず一番の「チェンジ」は、「校舎」です。高商(高等商業学校)時代に建てられた木造校舎は、現在の鉄筋コンクリートへと移り変わりました。同時に新しい学科の設置も進められます。全国で社会問題化した「大学紛争」もこの頃で、本学も例外ではなく、度々大学と学生との間で衝突がありました。コラムでは「衝突」そのものは取り上げず、当時の“こぼれ話”をすくい上げたいと思います。それから忘れていけないのは、本誌『学園だより』の創刊です。「学生の大学生活に少しでも役に立つように」の思いが込められ発行されました。(※2) そして「クマ」もこの時代に登場します。軽々しく「クマ、クマ」と呼びましたが、失礼しました。ただの「クマ」ではありません——「木彫りのクマ」です。それをもって「おしゃべり」な。



※1: HP「2009年ユーキャン新語・流行語大賞の候補語」<http://singo.jiyu.co.jp/nominate/nominate2009.html> (2009/11/26)

※2:『編集後記』より 『学園だより』創刊号

1. 木彫りのクマとの再開

今年(2009年)の9月から、本学では暖房設備の工事などの、大掛かりな改修工事が行われ、今も工事用フェンスが講義棟の外壁を覆っています。今の校舎(3号館講義棟)の完成は1973年(昭和48年)。昭和47年には、旧校舎(本館)の解体が進んでいました。(写真1)



(写真1) 昭和47年3月、手前の学生は山本学長。左側の外壁の向こうに雪山が見えています。

1908年(明治41年)に建設が着工された旧校舎(旧本館)の設計は、文部省技師の「新山平四郎氏」です。(※3) 新山氏は他に、北海道大学古河記念講堂(旧東北帝国大学農科大学林学科教室)や、群馬大学工学部同窓記念会館(旧桐生高等染織学校本館・講堂)の設計も手がけていました。(※4)

本学の旧校舎が今日まで残っていたら、有形文化財の一つに加えられていたと思われます。旧本館をどうして解体してしまったのか、と残念がる学生もいるかもしれません。実は解体される前にはもう登れる状態ではなく(※5)、保存を不可能にするほど老朽が進行していました。

現在、史料として残る旧校舎はごく一部。しかし大切に保存されているそれらの史料は、旧校舎の特徴を象徴するものばかりです。旧校舎本館の屋根に建てられた避雷針の「ヘルメスの矢」(写真2)は学生会館食堂のすぐそばに、旧本館の螺旋階段の手すりに飾られた「擬宝珠(ぎぼうじゅ)」は、本学4階「史料展示室」に2個、また緑丘会館(東京本部)に1個保管されています。



(写真2) 「ヘルメスの矢」



(写真3) 緑丘会館所蔵「擬宝珠」



(写真4) 旧校舎本館の螺旋階段

取材を始めたばかりの頃、他にはもう残されていないかと思えました。ところが、清水憲朔さん(昭和45年卒)が、貴重な史料を寄贈されていたのです。それは、旧校舎の解体材から創られた「木彫りのクマ(の親子)」。お気づきの通り、「序」で紹介したあの「クマ」です。

このクマはどこにいるのでしょうか。本学の史料展示室にはいません。『小樽高商小樽商大90周年展』には「戸谷大通三氏 所蔵」と書かれています。(故戸谷さんは昭和13年本学卒)しかし、『学園だより』の取材を通じて、どうやらクマと私は以前“会って”いたようです。長年勤務されている職員の方が、クマの行方を教えてください、再会を果たせました。なんとクマは、学長室のガラス戸の棚の上でくつろいでいたのです。



木彫りの裏には、清水さんから当時の学長・實方元学長に贈られた経緯が書かれています。商大の歴史とともに歩んできた旧校舎は、今は「木彫りのクマ」に。まるでタイムマシンに乗って、昔の校舎を目の前にしたようです。感動のあまり何枚も写真を撮り、長い間見つめていました。毛並みのような彫りあとを撫でると、クマの親子が口を開きました。「実はあの時の学生はね」と歴史を話し出したので、耳を傾けます。しかし、なにせ“おしゃべり”なので、その話をここですべては書ききれそうにありません。

※3: 「写真でみる小樽高商・商大小史④」百年史編集室 『学園だより』137号

※4: 『北海道の開拓と建築(下)』北海道建築士会

※5: 「文化遺産オンライン」文化庁 <http://bunka.nii.ac.jp/SearchDetail.do?heritageId=106671> (2009/11/26)

<http://bunka.nii.ac.jp/SearchDetail.do?heritageId=116675> (2009/11/26)

2. 木彫りのクマが見た熱気

日大闘争，東大闘争をきっかけに全国の大学に紛争が吹き荒れました。本学でも1976年にはついに、バリケードにより大学が封鎖され、新聞でもそのことが報じられました。当時取材する中で、「全面的に反論する」などと書かれたファイルにして2冊分の本学における学生運動のビラを閲覧することができ、日付を見ると、昭和47年11月7日、そして8日、9日、11日と、毎日のように作られていたことが分かります。これらのビラは、職員の方が落ちていたビラを拾い集めて保存されたそうです。「！」が頻繁に登場し、手書きでびっしりと書かれたビラには、まさに1960年後半から1970年代の時代の熱気が閉じ込められています。



「当時は、連日のように大衆団交が繰り返され、教授会は大学改革の論議に取り組みました。逮捕された学生の中には学業を放棄せざるを得なくなった犠牲者も出ました。もみ合いでけがをした教職員もいました」と篠崎恒夫名誉教授。大学はこのような状態でしたので、授業はままならなかったようです。「教室が封鎖されて、2年次か、3年次の授業は、体育館や廊下、旧小樽市商工会館でよく受けていたのを覚えています」と、山本眞樹夫学長（昭和47年卒）。「体育館で試験がありました。大部分はレポートでしたが、ある科目は試験で、例年より試験は易しいということは全くなく、難しかったですよ」。

大学紛争の流れは、立命館大学にあった反戦の象徴であるわだつみの像が破損されるところまで及びました。その流れの中で、「ああ、やはり小樽商大」と思える出来事もありました。1969年、フランス語の松尾正路先生の発議により戦没者慰霊塔が建立され、8月15日に開幕式が執り行われました。関係者から参列される遺族のために、冷たい飲み物を用意してくれるようとの依頼が大学生協に寄せられました。「ところが、生協学生理事と運動学生とは盛んな交流が

あり、「わだつみの像」の事件の流れでいうと戦没学徒を祀ることは攻撃の対象になる危険性があったわけです。ところが当日は何事もなく、飲み物が準備されました。運動学生も当たり前のように手伝っていました」と、当時の生協理事長、篠崎名誉教授。このような「よそではこうだが、商大では違った」ということがしばしばあったといえます。



当時の学生の話をする時、笑みがこぼれる篠崎先生

学生運動が盛んであったため、この時代は、ほとんど大学と学生との交流がないかに思われましたが、実際はそうではなかったようです。当時、学生と近い年齢で学生寮を担当していた職員の方に伺うと、「大学では争いがあったけれども、寮に招かれて学生と一緒に飲んでいました。寮の歓迎コンパや追い出しコンパなどにも呼ばれていましたね」と。昔はそのような学生との交流する機会があったそうですが、逆に現在はあまりないそうです。学生との交流が少ない中、最近の学生が考えていること、この世の中をどうしていきたいのかが伝わってこない、そう感じられる教職員の方もいらっしゃるかもしれません。

大学と学生との関係を、本学の学生運動をきっかけに考えると、ひょっとしたら大学紛争のあった時代の方が、両者の距離は近かったのではないかと思います。「チェンジ」し続ける本学において、大学と学生とのあり方も「チェンジ」の一つです。今の学生がどちらの方向を向き、両者の関係はどのように変化したのでしょうか。

今回の『学園だより』の特集では、今年一年間、幅広い分野で活躍した学生を取り上げました。インタビューでは、「団体の枠を超えて」「今までになかった」「ネットワークが広がる」「他大学とのつながり」などのキーワードが目立ち、学生は「新しいコミュニケーション」の可能性に目を向けているよ

うに感じます。従来の学生の行動範囲をどんどん広げ、学外は、地域、他大学、そして社会とのコミュニケーションを開拓しています。

最近の学生の活動から、現代は選択肢の多い、多選択時代であると改めて気づかされます。インターネットや携帯電話の普及は、地理的・時間的隔たりを取り払い、多様なコミュニケーション手段と、交流範囲の拡大に貢献しました。大きな集団（コミュニティ）に入らなくとも、人間関係を広げることができます。むしろ決まり事や制約の少ない小規模な集団の方が、自分たちの本心に望む交流を選択できるかもしれません。本学でも、部やサークルはこじんまりし、ここ数年の総団体数は増加しています。

学生のコミュニケーションのあり方に「チェンジ」が見られる一方で、「face-to-face（面と向かって）」のコミュニケーションが変わらず基本にあるように思います。学生の活動の目標は様々ですが、全て「face-to-face」の上に成り立つものばかりです。インターネットや携帯電話は、「face-to-face」の交流を支えるにすぎず、またそれらのツールだけでは、今の活発な学生の活動を支えるには、不十分です。ここで大きな役割を担っているのが、「大学」だと思います。学生の幅広い交流や活動の実現は、大学の支えがあったからではないでしょうか。団体を立ち上げる時のアドバイス、広報での宣伝、学内の団体が交流できる集まりの開催など。これが大学と学生との新しい関係であり、新しい交流の一つであるように感じます。さらに最近では、OB・OGとのつながりも増え、三者によるネットワークの強化が、学生のさらなる活躍を後押ししています。

新しい時代の流れを反映する学生に、時に戸惑われるかもしれません。当時(1961—1985年)と違い、例えば目指すものが同じであったとしても、多選択時代の若者がそれを表現する方法は様々です。結果、掴みどころが無く感じられるのではないかと思います。しかし、大学紛争時代には叶わなかった、大学、OB、学生との結びつきを、他大学よりもさらに強くしていけたらいいと思います。

3. 『学園だより』

「『学園だより』の歴史についてちょっと知りたいな」と、何度目かの企画会議で後輩が言いました。バックナンバーを見ていと、昭和46年2月22日が『学園だより』の誕生日でした。約39歳です。B5サイズからA4サイズと大きくなり、昭和61年以降カラーになりました。



『学園だより』の題字は、代々学長が書かれています。右から、實方正雄元学長、伊藤森右衛門元学長、長谷川亮一元学長、藤井榮一元学長、によるものです。

『学園だより』の作成を担当された本学職員、大田さん（平成8年以降担当）、竹内さん（平成14年以降担当）、そして吹田さん（平成18年以降担当）に後輩とお話を伺うと、大田さんは「時代が早く変化する中で、学園だよりは色々な可能性があるように感じます」と。三人は今後の『学園だより』について、「最近、地域との結びつきも感じられるようになったね」「OBとのつながりがより強化されたように思える」「ターゲットやテーマを決めた紙面づくりに期待。例えば受験生の視点で読んだときにも、『商大生ってすごいな』と思える内容など」と、学内にとどまらない広報誌への可能性に気づかせてくださいました。吹田さんが担当されてから、新たに私たち「学生編集員」が加わりました。取材では「学生の視点から記事を書ける利点を生かし、時代によって変わる学生のニーズをどう紙面に反映するか」という点についても期待の声がありました。「**大学と学生の交流の場になりましたね**」と吹田さんから、学生編集員が最初に作成に加わった『学園だより』についてこんな一言もありました。また「すぐに新しいニュースを発信できる媒体は他にもあり、また電子化が進んでいる。けれど、何年も続くことで歴史の史料としての価値を持っていると思い

ます」と竹内さん。同時に、学生と学内外をつないでいく役割としての『学園だより』の代わりはないように思えます。



左から、大田さん、竹内さん、吹田さん

4. 再び、木彫りのクマ

木彫りのクマがおしゃべりだと改めて思ったのは、先日博物館に行った時のことでした。その日は、常時展示のできない、小樽の「宝」が特別に公開されていました。倉庫に眠っていた宝物の中には、見覚えのある高等文官礼服もありました。これは小樽高商時代の校長・苦米地校長先生が寄贈されたそうです。



本学の前進、高商時代を実際に知るわけでもないのに、その当時着られていた礼服をみると、ふっとその時代にタイムスリップしたように感じました。「物」にはそんな時間の隔たりを取り払う不思議な力があるように思えます。その不思議な力が、同時にその「物」が見てきた「歴史」を語るのではないだろうか、と思った瞬間、あの「クマ」が歴史を語り出したことを思い出しました。史料の電子化が進む時代において、五感で感じられる歴史も同時に保存し続けてほしいなと思いました。

最後にこんなやりとりがあったので紹介します。

子熊：「僕たちの生みの親が北海道の木彫作家・堀井清司さんって知ってた？」

私：「ううん」

子熊：「僕たちに親せきがいるって知ってた？今、東京の緑丘会館にいるんだよ！」

私：「へえー」

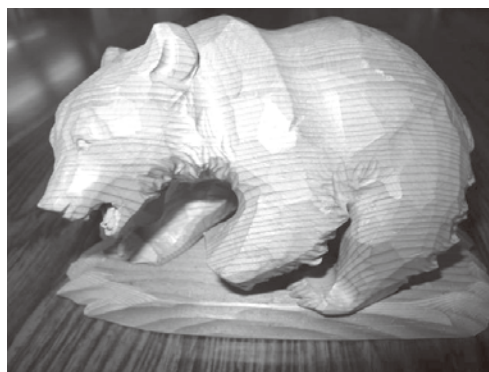
子熊：「あと僕たちが寒さに強いって知ってた？」

私：「ううん、どうして？」

子熊：「校舎だったからね！雪が降ってもへっちゃらだよ」

やはり、おしゃべりな木彫りのクマ。続きは次回のコラムで。

(佐藤亜美)



親戚の木彫りのクマ（東京緑丘会館所蔵）

ご協力いただいた皆様

山本眞樹夫学長、篠崎恒夫名誉教授、清水憲朔さん（昭和45卒）、緑丘会、高塚恵企画・評価室長、大田康子さん、竹内國男さん、吹田耕一さん、駒木定正助教授（北海道職業能力開発大学校）、小樽市博物館

皆様どうもありがとうございました！

部・サークル紹介

自慢の部活を紹介するコーナー♪
知られざる魅力を知るチャンスでもあります!!

YOSAKOIソーランサークル『翔楽舞』

こんにちは、翔楽舞です!現在、約150名で活動しています!

翔楽舞の最近の活動には、商大ビアパ演舞、中国演舞、いか電祭り演舞・お手伝い、海岸清掃ボランティア、老人ホーム演舞、他大学での学祭演舞、札幌ドームで行われたねりんピック開会式での1,000人演舞に参加などがありました。今の時期、YOSAKOIはオフシーズンと思われがちですが、翔楽舞は小樽を中心に演舞・ボランティアなど、様々なイベントに積極的に参加しています。



海岸清掃ボランティアの様子



国際交流パーティーでの演舞の様子

また、10月30日に商大で行われた国際交流パーティーでの演舞をきっかけに、たくさんの留学生が入部してくれました。現在は多目的ホールで週2回のグローバルな練習を楽しんでいます♪

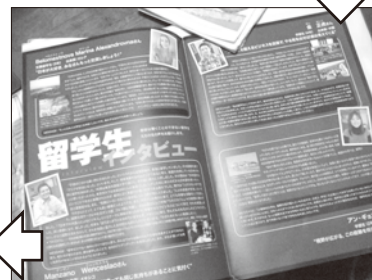
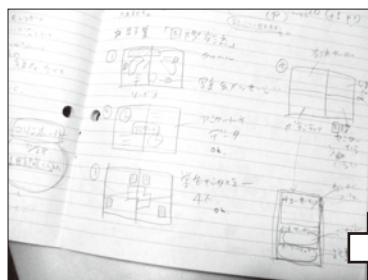
運営スタッフは来年の札幌YOSAKOIソーラン祭り出場に向けて、着々と準備を進めています。今年の演舞では「荒々しい海の嵐」を表現しました。来年はどんな演舞になるのか、今後の翔楽舞の活躍を楽しみにしてください。

『学園だより』 学生編集員

☒ こんな人募集!

- ☐ 好奇心旺盛である
- ☐ 人と会るのが好き!
- ☐ 文章を書くのが好き
- ☐ アイディアを出すのが好き!
- ☐ 何かを作り上げてみたい!
- ☐ 学生生活をより充実させたい!!

完成!



企画から取材、原稿作成、レイアウト、校正までほとんどすべてを行います!!

ひとつでも当てはまる人は ouc_gakuendayori@yahoo.co.jp へ!!

EDITOR'S ROOM

TOPIC 1: 国際交流週間に参加してきました! (10月30日多目的ホール)

1. 文化交流会 「わたしのお国自慢」



留学生の皆さんがそれぞれの出身国(スペイン、中国、アフガニスタン、ベネズエラ、オーストラリア、アメリカ、ベトナム、韓国、ドイツ、アイスランド、フランス、ロシア)の紹介をしてくれました。

留学生の方は流暢な英語でスピーチし、それを通訳の方が日本語に直すかたちで進められていました。時折、留学生自身も日本語を交えたり、スピーチの中に笑いをとる場面もあり、会場は和やかな雰囲気に包まれました。

的ホール全体がよさこい会場に。熱気が冷めやらぬまま、社交ダンス部によるダンスが始まり、その優雅さに見とれてしまいました。最後を締め飾ったのは、虚無僧に扮した



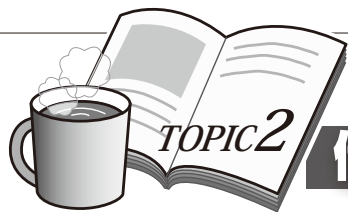
アメリカ人留学生による尺八の演奏でした。私たちは生で聴くのは初めてだったのですが、会場の皆さんもそうだったのではないのでしょうか。パーティーと同時進行で、茶道部によるお茶会も開かれていました。私たちも留学生も、本格茶道を楽しみました。

皆さんも、こういった機会に、留学生と交流してみてください。世界が広がりますよ。

(須田・柳田)

2. 国際交流パーティー (ハロウィンパーティー)

私たちが会場に入ってみるとそこには、ドラキュラ、スケルトン、魔女、ナース、恐竜、レンジャー、虚無僧などに衣装した人たちが。テーブルの上のごちそうを食べた後は翔楽舞の皆さんがステージでよさこいを披露してくれました。最終的には多目



商大生がよく借りる本はコレ!

1位

小樽高商の人々

商大の歴史について書かれています。商大をもっと知ることができますよ。



2位

Figuring foreinger

英語の問題集。Topicが豊富で楽しく学習できます。

こんな本も人気! ●小林多喜二伝 ●ホームレス中学生
●容疑者Xの献身 ●陰日向に咲く etc.

図書館からお知らせ

他の学生にぜひ読んでほしい本の推薦文を書いたらオリジナルブックカバープレゼント! 詳しくは図書館カウンターまで。

(柳田)

編集員
すずちの
小部屋。



「徒然日記その1」

このコーナーを担当する時に編集長より好きなことを書いていいと言われたのですが、何を書けばよいのやら…笑。

突然ですがみなさんは自分の車を持っていますか? 僕! ? もちろん持っています! と言いたいところですが諸事情により手元にはありません。今に始まったことではありませんが、最近の若者は“車離れ”が加速しているそうです。車の購入や維持費、保険費等でお金をかけるよりも、携帯電話やパソコン等のツールにお金をかける傾向にあるそうで…。確かに周りの知り合いをみても自分の車を持っている人が非常に少ないです。やはり時代背景によって人の価値観・欲求は少しずつ変わっていくんですね。 (鈴木)

就活生へ

今年も、就職活動の季節がやって来ました。毎年、ちょっと早過ぎると思いつつも世間の流れには逆らえません。鳩山首相がどんな景気対策を考えているのか分かりませんが、2011年4月採用が2010年に引き続き厳しいものになることは、たぶん間違いありません。そこで皆さん、もう参加しているとは思いますが、キャリア支援課で実施している緑丘企業等セミナーや各種講座、また、CDP(キャリアデザインプロジェクト)が企画する各種イベントに、できるだけたくさん参加して、就職スキルを磨いてください。もし、困ったり悩んだりすることがあったら、就職アドバイザーに相談してみましょ。そして、空いた時間ができたら、キャリア支援センターを覗いてみてください。コーヒーやお茶(無料)を飲みながら、職業観を醸成しましょう。P.S 内定を決めても卒業を決められなければ後の祭り。「単位」修得は確実に。(キャリア支援課)

商大周辺のお店を取材！ 第二弾！！



◁手打ちパスタランチ。
季節限定メニューも
あります。

今回はTrattoria Confortevole~居心地のいいレストラン~を取材させていただきました。

こちらのお店の特徴の一つは、キッチンがオープンになっている『みせるお店』であること。

「お客様は見ることで安心感を持つことができ、私は見られることで、常に緊張感を持って仕事をすることができるんです」と語るご主人。一階はカウンター席になっており、一人で来るお客さんも多いそうです。お仕事については、「やっぱり自分が好きでやってる仕事なので毎日楽しいです。一生の半分は仕事。だからこの仕事をして本当によかったと思っています」そんなご主人のお勧めの手打ちパスタは、朝の五時から自宅で一食分ずつ仕込んでいます。ご主人のこだわりから、おいしさの裏側が見えた気がしました。「中学生のころから料理を作るのが好きで、その頃から、『おいしい』と言ってもらえることが嬉しかったです。あと、お店に何度も足を運んでもらえることも、すごくやりがいになっています」（高橋）



「商大生のみなさん、よく高いイメージがあると言われますが、『トラッテリア』は日本語で食堂に近い意味なんです。だから安く食べられるので気軽に来てくださいね！日替わりメニューや、宴会メニューもあります。」



Trattoria Confortevole

(トラッテリア・コンフォルテボレ)~居心地のいいレストラン~

所在地：小樽市緑4-1-13 定休日：木曜(祝日を除く)

ランチ11時~14時 予算900円前後

編集員のお気に入り

1

テーマ~番組~

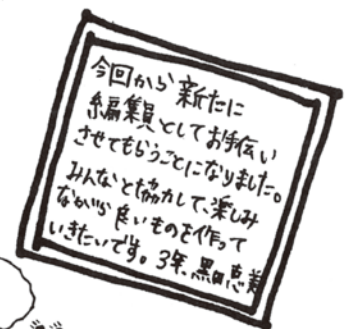
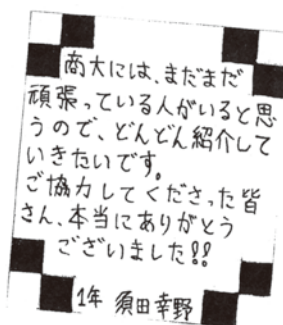
最近ひそかな楽しみとなっているのが、HTB水曜夜23:15放送の「シルシルミシル」(MCくりいむしちゅー)。企業についての特集や、物事のお初を紹介する「ミルミルオハツ」、視聴者の素朴な疑問を調べる「すぐ調べる課」などのコーナーがあり、いずれも切り口が面白い。その中でも、今気になるのは、AD堀くんのお初店調査(食べ歩き)。彼のキャラクター性や、「とってもおいしいです」で締めくくるグルメリポートが、巷でも人気のようです。

公式HP (<http://www.tv-asahi.co.jp/shirushiru/>)にあるバックナンバーだけでも、楽しめるので、興味のある方は見てみてください！(もちろん番組も!!)(須田)

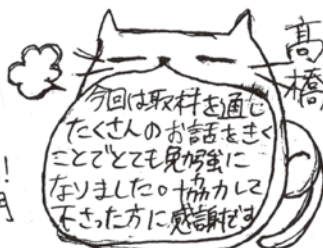
編

集

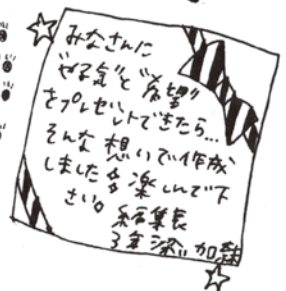
後記



手書き...字の
上手くないのが
バレちゃいますね笑
今回もみなで楽しく
作業できて良かったです!
鈴木 竜明



木曜日の熊から
様々な発見があり
ました。今回は是非
応援団を取組ませ
て!読んでくれた人
も、商大を好きにな
るようなコラムを
書いていきたいです。
佐藤 亜美



創立百周年記念事業 ～98年度活動報告～

小樽商科大学は2011（平成23）年に、創立百周年を迎えます。私たち「学生企画事業実施小委員会」（通称、百周年委員会）は、百周年を学生目線で盛り上げることを目的に活動を行っています。

1. 新体制が始まる！

3年生が引退し、10月から1,2年生のみでの活動が始まりました。

新委員も加わり、来年度に向けて準備を進めています。

新代表の小枝歩美さんよりあいさつ

こんにちわ☆この度百周年小委員会の委員長になりました、小枝です。私たち小委員会は、2011年に百周年を迎える商大を、学生目線から盛り上げていくために結成されました♪新しい委員も募集しますので、よろしければ是非(´▽`)

2. 今後の計画

●第58回緑丘祭ステージ企画

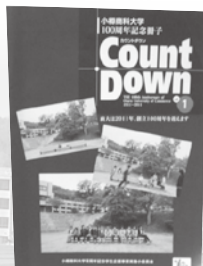
…より多くの皆さんに、百周年をPRするとともに、楽しんでもらえるような企画を考案中。

●百周年記念冊子

「Countdown」を発行

…創立記念日（7月7日）前後に発行予定。来年発行の

「Countdown vol.2」制作を始めています。



●写真の展示

…99周年年度の学生の様子を写真パネルにして展示予定。百周年目には3年分の写真を展示する予定です。

3. 「FMおたる」におけるPR

FMおたる「リクラジ再び（土曜10:00～12:00）」の中の「ショータイム」というコーナーに月に1度出演。百周年のPRを継続中。



学生企画事業実施小委員会では、更なる新メンバーを募集しています！

11月現在、2年生2名、1年生7名で活動しているという状況なので、興味のある人はぜひouc_100th@yahoo.co.jpまで連絡ください。お待ちしております！

「こんな企画がやってみたい!」「こんなイベントがあったらいいな」というアイディアも随時募集中です。

国際交流週間を実施

10月24日(土)から10月30日(金)にかけて「国際交流週間」を実施しました。このイベントは留学生と学生、教職員及び地域の方が国際理解を深めることを目的に毎年行われています。

初日の日本文化体験会を皮切りに、「ちぎり絵制作と廃油ECOキャンドル制作体験会」、「留学説明会・報告会」、「日本人学生と留学生によるスポーツ大会」、「文化交流会 わたしのお国自慢」、「国際交流パーティ」が行われ、最終日の「文化交流会 わたしのお国自慢」、「国際交流パーティ」には、約150名もの参加者が集まりました。

「文化交流会 わたしのお国自慢」では、12ヶ国の留学生の出身国によるプレゼンテーションが行われ、民族衣装に身を包んだ留学生が会に華を添えていました。

また、国際交流週間の最後を飾った「国際交流パーティ」は、ハロウィーンにちなみ、仮装した参加者も多く、会場の雰囲気を盛り上げていました。さらには、国際交流サークルによるカルタや折り紙の体験コーナーが設置された他、アメリカ人による尺八演奏、社交ダンス部やYOSAKOIサークル翔楽舞の演舞が華々しく行われ、留学生や日本人学生、小樽市民など様々な人々の交流の場であるパーティは、大盛況の内に幕を閉じました。



(国際交流パーティ)

第8回「一日教授会」が開催されました

市民の皆様から商大に対する意見・要望をお聞きし、商大と地域との絆を深めることを目的に毎年開かれている「一日教授会」が、11月19日(木)、小樽経済センタービルで開催されました。8回目を迎えた今年のテーマは「小樽と小樽商科大学—地獄坂が結ぶ絆—」で、市民、学生、教職員等、約120名が出席しました。



1部では、まず山本眞樹夫学長が「小樽と小樽商科大学」と題して、「2011(平成23)年に創立百周年を迎える小樽商科大学は、小樽市民の熱意と寄附により生まれ、育てられた大学です。百周年の記念事業は市民の皆様と共に祝いたい」と講演しました。続いて、ゲストスピーチとして、小川原格氏(藪半代表取締役)から、市民から見た商大への提言をいただきました。小樽有数の日本そば屋を経営し、また小樽の観光カリスマとして活躍している小川原氏は、特に本学学生に期待を寄せて、「小樽の大人たちがどれだけ真面目に町づくりを考えているか、学生が持つ新鮮な目で見ても疑問をぶつけてもらいたい」、「企画段階から、学生が小樽市民と一緒にプロジェクトをやってもらいたい」と話されました。



こういった期待に応え、2部の意見交換会では、「本気【まじ】プロ」、「小樽笑店」、「(株)シーナ」といった、商大生が小樽で実施しているプロジェクトの報告がなされました。「本気【まじ】

プロ」とは「商大生が小樽の観光や活性化について本気で考えるプロジェクト」の略で、授業の一環として行われています。「小樽笑店」はボランティア精神を持って学生らしいイベントを企画し、地域の活性化を目指す学生のサークル活動です。また、「(株)シーナ SEA-NA」は商大生が起業した会社で、まだまだ知られていない小樽の魅力を発信することをコンセプトに、インターネット広告やホームページの製作、運営を行っています。こういった地元小樽と関係する学生たちの活動には、出席した市民やOBから多くの質問や意見、励ましを頂きました。また、学長からは小樽にもっと多くの学生が住むように、百周年を機に学生寮を建設することが報告され、市民と大学の絆が大いに深まった一日教授会となりました。

薬物乱用の防止について

最近、大麻取締法違反事件が、相次いで発生しています。大麻等の薬物は、その乱用だけではなく、所持や栽培・製造あるいは販売行為も重大な犯罪行為であり、**大麻では5年以下、覚醒剤では10年以下の懲役**と、法律で厳しく罰せられるとともに、薬物の乱用は心身を蝕み、通常の社会生活が送れないようになります。

また、本学として、万一そのような行為を行った学生があれば、退学を含む厳重な処分を下すことになります。

このように、安易な気持や一時的興味で不正薬物に接すると、取り返しのつかない結果になりますので、薬物乱用の甘い誘いには気をつけるとともに、小樽商科大学の学生としての自覚を常に持ち、責任ある行動を心がけるようお願いします。

2008年度 経済学科授業評価

2008年度に実施した授業改善のためのアンケートの概略と経済学科の科目別集計結果を以下のとおり報告します。

<評価方法の概略>

1. 集計科目／経済学科専門科目(但し, 経済数学, 研究指導, 卒業論文(夜間主コース)を除く)
2. 実施期間／2008年7月(前期科目) 及び2009年1月, 2月(後期・通年科目)
3. 質問項目／以下のアンケート及び集計表を参照。
4. 評価／各質問について、『5』が強い肯定, 『1』が強い否定を示すような選択肢による5段階評価となっています。
5. 集計表の数値／この集計表には平均値(小数点以下第二位を四捨五入)を記載しています。

授業改善のためのアンケート

このアンケートは、教員が授業改善の手がかりを得ることを目的としたものです。回答結果は、成績評価には全く関係ありませんので、率直な意見を記入してください。

回答は、5段階評価です。あてはまる数字をマルで囲んでください。また、この授業で良かった点、ならびに改善例について、自由記述欄に記入してください。

授業の科目名と担当教員名を記入してください。

科目名：

担当教員名：

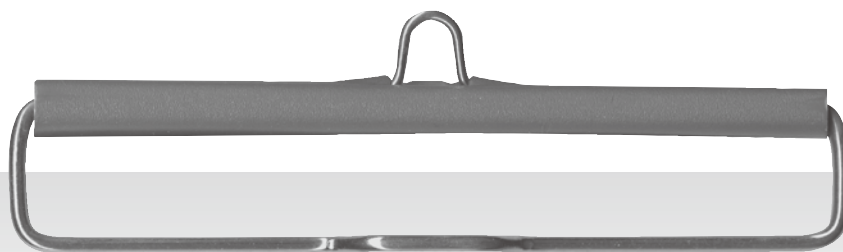
【回答の指針】

- 5 強くそう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 全くそう思わない

上記の授業について、以下の質問に回答してください。

- | | 強く
そう思う | | どちらとも
いえない | | 全く
そう思わない |
|------------------------------------|------------|---|---------------|---|--------------|
| 1 シラバスやオリエンテーションから、事前に十分な情報が得られた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 学生の理解を促す工夫(授業形態や内容など)が見られた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 教員の説明や指示内容は、明確であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 教材や資料(板書、スライド、プリントなど)の提示が適切であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 学生への対応(質問の回答、進度の調節など)が適切であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 授業中の私語や遅刻者への対処が適切であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 授業に適した教室環境(人数、広さ、温度など)であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 この授業の良かった点や優れた点を記述してください。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

- 9 この授業に対して、「こうすれば望ましい」という意見があれば記入してください。



2008年度
経済学科授業改善のための
アンケートのまとめ

1 シラバスやオリエンテーションから、事前に十分な情報が得られた。

2 学生の理解を促す工夫（授業形態や内容）が見られた。

3 教員の説明や指示内容は、明確であった。

4 教材や資料（板書、スライド、プリントなど）の提示が適切であった。

5 学生への対応（質問の回答、進度の調節など）が適切であった。

6 授業中の私語や遅刻者への対応が適切であった。

7 授業に適した教室環境（人数、広さ、温度など）であった。

昼間コース

科 目 名	教 官 名	履修者数	回答数	1	2	3	4	5	6	7
マクロ経済学	山本 賢司	144	46	4.2	3.8	3.9	4.3	3.5	3.8	3.5
ミクロ経済学	山本 賢司	70	33	4.3	3.5	3.8	4.0	3.6	4.1	4.4
統計学	遠藤 薫	270	97	3.8	3.4	3.5	3.9	3.7	3.2	3.8
経済史	松家 仁	243	73	3.7	3.4	3.5	3.5	3.6	3.7	4.0
経済分析論	花田 功一	180	22	4.1	3.3	3.5	3.8	3.5	3.2	4.1
経済統計学	寺坂 崇宏	49	16	4.6	4.5	4.7	4.8	4.8	4.2	4.5
経済学史	江頭 進	125	61	4.3	4.5	4.5	4.5	4.5	4.3	3.9
日本経済史	今西 一	243	17	4.1	3.6	3.8	3.8	3.8	3.6	4.2
外国経済史 I	平井 進	26	5	4.4	3.8	4.6	4.4	4.3	3.6	3.6
国際経済学	船津 秀樹	297	106	4.3	4.1	4.3	4.1	4.2	4.0	4.3
公共経済学	佐野 博之	160	42	4.7	4.7	4.7	4.9	4.4	3.8	4.6
労働経済学	中村 健一	312	95	4.0	3.8	3.8	4.1	3.8	3.7	3.5
産業組織論	鶴沢 秀	62	19	3.8	4.1	3.8	4.1	4.0	3.8	3.9
財政学	角野 浩	180	59	4.3	4.3	4.3	4.2	3.8	3.8	4.3
金融論	若井 克俊	313	83	4.1	3.4	3.9	3.8	3.7	4.2	4.1
国際金融と世界経済	渋谷 浩	61	28	4.2	4.3	4.3	3.6	4.4	3.9	3.9
現代ファイナンス理論	和田 良介	60	19	3.6	3.5	3.2	3.4	3.5	3.4	4.3
国際マクロ経済学	廣瀬 健一	17	3	4.7	4.3	4.3	5.0	3.7	3.0	2.3
経済学と現代 A	経済学科教員	242	145	4.0	3.4	3.5	3.5	3.3	3.1	3.7
経済学と現代 B	経済学科教員	269	166	3.8	3.0	3.1	3.2	2.9	2.8	2.6
経済学入門 I	角野 浩	376	149	3.6	3.4	3.6	3.3	3.0	3.5	3.4
経済学入門 II	船津 秀樹	287	88	3.7	3.4	3.3	3.8	3.6	3.6	4.0
経済学特別講義 B	船津 秀樹	16	4	4.5	4.5	4.8	4.8	5.0	5.0	4.0

夜間主コース

経済学入門	柴山 千里	56	29	4.1	3.4	3.7	3.9	4.0	4.2	3.9
経済と統計	寺坂 崇宏	15	11	3.7	3.6	3.6	3.9	4.0	4.2	4.2
経済史	松家 仁	30	12	3.7	3.3	3.3	3.4	3.8	3.8	4.0
応用ミクロ経済学	佐野 博之	33	17	4.4	4.2	4.3	4.6	4.1	4.0	4.3
金融経済	若井 克俊	18	10	4.2	3.9	4.4	3.9	4.3	4.1	4.1
国際経済と現代	柴山 千里	33	15	4.2	4.3	4.1	3.5	3.9	3.9	4.5
経済学と現代	中村 健一	41	32	4.2	4.1	4.2	4.1	4.0	3.5	4.4
経済書購読 I	平井 進	10	5	4.4	4.2	4.8	4.8	4.4	4.0	4.4

新任教員紹介

水島 淳恵 (みずしま あつえ)

准教授 (経済学科)

今年の4月より経済学科に赴任しました水島です。北海道は初めてですが、日本というよりも欧米に似た雄大さがあり、その雄大な環境の中で仕事ができることを嬉しく思っています。

研究では経済成長に興味を持っております。経済成長という言葉は聞いたことがあると思いますが、具体的には、①世界各国の貧富の差はなぜ生じたのか。②①の原因である経済成長をもたらした原動力は何か。③その過程で生じた成長の軌跡や破綻をどう理解すればよいのか。を分析する学問になります。

私の研究では、まず経済主体が、与件(例えば、(i)人口構造変化や(ii)教育政策)に対してどのように行動するかを個人レベルでモデル化しています。こうした個人の行動は経済全体に反映されることになります。そこで、政策の変化等が資本蓄積および経済成長に対する影響を通じて経済厚生に与える効果を分析してい

ます。

学部では「マクロ経済学」を担当します。「マクロ経済学」は「ミクロ経済学」とともに経済学を学習するものがマスターしなければならない基礎科目になります。というのも、3、4年生で履修する金融論・財政学・公共経済学・国際経済学は応用分野とよばれ、(a)「マクロ経済学」・「ミクロ経済学」で学ぶ理論的基礎を発展させた分野であり、(b) マクロ・ミクロの基礎知識がなければ理解が困難となってゆくからです。

授業では基本的な分析ツールと経済学の考え方を身につけることを目的としてゆきます。また、授業では演習問題として公務員試験の問題を扱ってゆきますので、将来公務員受験を考えている人にとっても有益であると思います。

深田 秀実 (ふかだ ひでみ)

准教授 (社会情報学科)

はじめまして。本年度4月より「プロジェクトマネジメント」等担当教員として本学商学部社会情報学科に着任いたしました深田秀実と申します。長い歴史と伝統を有する本学の研究・教育環境のもと、学生諸君と切磋琢磨できることを大変うれしく思っております。また同時に、まだまだ若輩の身でありますことから、諸先生方や職員の皆様にご指導いただき、日々精進していく所存でございます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

出身地は、岩手県の小さな田舎町で、大学入学時から盛岡市に住み始めました。社会人となってから、仙台市、つくば市で暮らしましたが、再び、盛岡市に戻って地方公務員となりました。その後、仕事をしながら社会人学生として学位(博士(ソフトウェア情報学))を取得し、現在に至っております。北海道は、これまで旅行で何度か訪れただけでしたが、今は、小樽のきれいな海を遠くに眺めながら、学食で昼食をとる日々を楽しんでおります。小樽商科大学に奉職する機会を与えていただき、本学の諸先生方ならびに職員の皆様に改めて感謝申し上げます。

さて、わたくしの専門は、情報システムです。その中でも、地理情報システム(GIS: Geographic Information Systems)を主な研究テーマとしております。行政におけるGISは、阪神・淡路大震災を契機として、その有用性が注目され、進展してきました。しかし、本来GISが得意とする、空間解析などの分析機能を用いた、行政内部の意思決定支援というような利活用については、まだまだ発展途上にあります。今後、どのようにすれば自治体GISの利活用が進むのかといったテーマで実証的な研究を行い、自治体GISのさらなる普及を進めることが、自治体職員から大学教員に転身したわたくしの役目であろうと考えております。

わたくし自身、研究・教育の経験が浅く、まだまだ修行中の身ではございますが、岩手の産学官連携組織にも関わっていた時期があり、今後はその経験を生かし、本学における地域連携・地域貢献という面でも、微力ながらお手伝いできればと考えております。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

写真でみる小樽高商・商大小史 24

百年史編纂室

外国人教師の「待遇」

戦前期に最も長く在籍した外国人教師、マッキンノン (Daniel Brooke McKinnon) について見てみよう。一九一六年まで山口にて中学教師をし、大学院を経て、一九一七年に本校の外国人教師となった。その後、基本的には、三年もしくは二年ごとに更新し、一九四二年三月まで在籍する。任期付雇用であるから、給与の面で大きな変更はない。しかし、注目すべき変化はある。まずは一九二四年に「奏任（そうにん）ニ準シ」待遇となる。そして、別紙のように、一九三七年には、「勅任ニ準シ」待遇で扱われる。「俸給」が変わったり、あるいは特別な手当が支給されたわけではないので、純粋に、形式的な待遇の変更である。

は異なり超格差社会・差別社会である高商時代において、明らかに「上の上」に属していた。官舎も、内務省推奨の実験的な寒冷地住宅を割り当てるなどの努力もされている。

語学の授業と専門科目担当のみならず、例えば、スイス人のデーゲン（独仏語担当、途中から「奏任」官待遇）のように、積極的に生徒の演奏活動の指導（演奏旅行に同行したりそのための寄付金集めも）をする先生も少なからずいた。

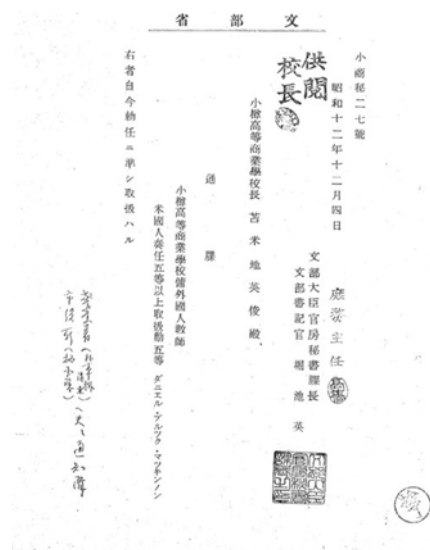
活躍の場が広がると、「立場」が問題になる。授業をするだけの「お客さん」では決してない。学校の活動のあらゆる場面でなくてはならない人材である。教育活動の中で特別な存在と考えられた人もいるだろう。記念行事などでの寄付金額をみると、現実の序列を推測できる。外国人教師の多くは若いにもかかわらず、けっこう多額である。

日本人教員については、教授、助教授、講師などの名称とともに、さらに重要なものとして、勅任官と奏任官という違いがあった。位階の序列もあり、陸叙（しやうじよ）するたびに勲章の返却も行われていた。勅任官は、高商であれば校長や年輩の教員一、二名が任官される。名前の通り、形式的には天皇が任命するという官職である。校長室のチームだけには菊の紋章があったし、勅任官であれば、皇族の

優秀な人材確保、という目的もあったのだろう。高額な赴任旅費や給与も、期間限定の雇用ながら、用意されていた。教職員間の待遇が、現在と

「マッキンノン教師勅任ニ準シ取扱方ノ義上申」
(1937年の『秘文書綴』)

「右者自今勅任ニ準シ取扱ハル」(一九三七年の『秘文書綴』)



パーティーと呼ばれることもある。行幸行啓の時に待っている場所も異なる。当時、勅任官になるということは大変な栄誉と考えられ、各組織で一目置かれたのだろう。給与などの経済的な待遇が良いだけでは、「二介の外国人教師」と言われ、不快な思いをしたかもしれない。そこで、今で言う（北大などの）「特任教授、特任准教授のようなものだろうか、「勅任」官待遇、「奏任」官待遇という扱いがひねり出された。学校長が申請し、文部省で手続きされる正式なものである。このような手続きが行われたということは、われわれの想像以上に、外国人教師の置かれた立場の難しさがあったようにも思われる。また、「勅任」官待遇の重み、インパクトは強かったのかもしれない。

ところで、マッキンノンの退職手続きでは、任期途中というところで、契約条項に基づき違約金が支払われたことになっている（一九四二年の『秘文書綴』）。しかし、書類の中に「勅任ニ準シ」という文言はもはやどこにもなく、再び一外国人教師として扱われている。



OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI

No.157